

# 研究 報告

## 土着天敵に影響のない殺虫剤の選択による ミカンハダニの密度管理

静岡県農林技術研究所果樹研究センター 増井伸一

### はじめに

ミカンハダニ *Panonychus citri* は高い繁殖能力と薬剤抵抗性発達によりカンキツの難防除害虫に位置付けられている。このため、静岡県では薬剤抵抗性害虫の対策として、殺ダニ剤の温存を目的に、農業からの土着天敵保護とともに、植生を活用した土着天敵の効果の安定化によるミカンハダニの密度管理技術を検討してきた(増井ら, 2018 b)。ここでは、ミカンハダニの密度管理技術のうち、農業からの土着天敵保護の観点で実施した研究の概要を紹介する。

### I ミカンハダニの土着天敵の発生実態

静岡県では沿岸部を中心にして各地にカンキツ産地が存在する。この中で主要な産地である浜松市北区三ヶ日町(以下、西部とする)、静岡市葵区および清水区(中部とする)、沼津市西浦(東部とする)の各10圃場を調査地点とした(図-1)。2003年と2004年の5~10月に3週間間隔で各圃場4樹から合計120葉をランダムに選びミカンハダニ雌成虫数と土着天敵数を調査した。

#### 1 土着天敵の種構成の地域差

ミカンハダニの土着天敵として、静岡県西部と中部ではカブリダニ類が主体であり、西部で93%、中部で

78%を占めた。カブリダニ類は東部でも見られ、3地域で捕獲された雌成虫の99.5%にあたる773頭がミヤコカブリダニ *Neoseiulus californicus* であった(図-2)。本種は2000年代にカンキツ園での発生が報告されるようになり(KATAYAMA et al., 2006; 大西ら, 2006; 岸本ら, 2007)、ミカンハダニに対する密度抑制効果も確認されている(KATAYAMA et al., 2006)。東部ではカブリダニ類が17%にとどまった一方で、従来から発生しているダニヒメテントウ類 *Stethorus* spp. が40%、ケシハネカクシ類 *Holobus* spp. が29%を占めた。このほかの天敵として、いずれかの地域でクサカゲロウ科、ハダニアザミウマ *Scolothrips takahashii*、ハダニタマバエ *Feltiella* sp.,



図-1 調査対象とした静岡県内の主要カンキツ産地(増井ら, 2018 a)

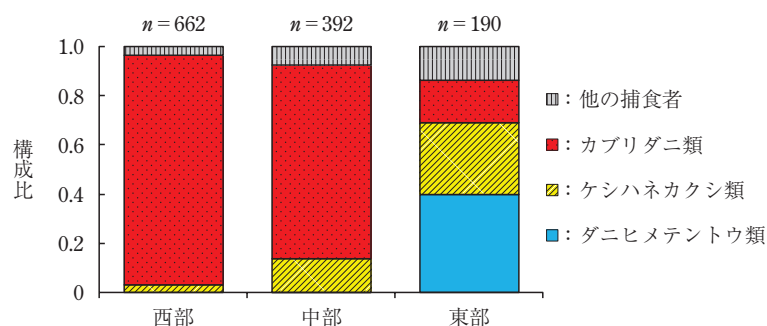


図-2 慣行防除圃場におけるミカンハダニの土着天敵の種構成(増井ら, 2018 a)

Conservation Biological Control for *Panonychus citri* through  
Insecticide Selectivity in Citrus Orchards. By Shinichi MASUI  
(キーワード: カンキツ, ミカンハダニ, 保全的生物学防除, 殺虫剤)